



2024 年

5 月 第 3・4 週 の 主 日 礼 拝 説 教 要 約

・ 5 月 1 9 日 使徒言行録 2 : 1 - 8 (1 - 2 1) .

『 終りの日とは 』

・ 5 月 2 6 日 コリントの信徒への手紙Ⅰ 1 2 : 1 - 6 .

『 同じ唯一の神 』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

《 終りの日とは 》

終りの日に、私（神）は、全ての肉なる者にわが霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し（神の言葉を語り）、若者は幻を見、老人は夢を見る。その日、男女の奴隷にも、わが霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。上では、天に不思議な業を、下では、地に徴を示す。血と火と立ち上る煙が、それだ。主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の名を呼び求める者は皆、救われる。（新約聖書 使徒言行録 2:17-21, 旧約聖書ヨエル書 3:1-5a）

ペトロは、今起きていることはヨエル書（上記）の預言の成就であることを宣言します。キリスト教では、これを“聖霊降臨（ペンテコステ）”と呼びます。“終りの日”とは多くの場合、まさにその日が始まった、終わりの始まりの日だと解釈されました。

けれども、その日をもって“終りの日”とはならなかった当時の世界では、その後、紀元1000年に、西洋を中心に今度こそ世界が消滅するという「千年恐怖」のデマがはびこり、聖地巡礼が盛んに行われました。西暦2000年にも同類の現象が起きたのは記憶に新しいことです。

ただ、世界はあと数年でペトロが指摘したその“終りの日”から数えて2000年が経過します（2029年または2030年）。今日の世界のキリスト教会では、まだ公式にはその時までのカウントダウンはなされません。

さて、今日の聖書におけるその日は、ユダヤの暦の五旬祭。使徒言行録の2章2節以下には、使徒たちが過越祭の時から滞在し続けているエルサレムにある家の「家中に響く」音が、「天から起こり」、「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」のです。すると「一同は、聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話し出した」のでした。

これがヨエル書における、神が“霊を注ぐ”ことであり、さらに立場を超えて、複数の預言者が次々に出現し、その場に集まった聴衆がそれぞれの母国語で神の言葉を、「霊が語らせるままに」聞くことが実現したようです。

一体、何が起きているのか、これを把握できたのはペトロでした。前後の文脈から察するに、彼の（超）能力は、この時の聖霊の力によること以外には考えられないことでした。

《 同じ唯一の神 》

神が三位一体の神、父なる神、子なる神、聖霊なる神であることに、やっと気が付き、そこにたどり着けたのが、唯一、キリスト教だけです。また、これが認否の問題ではなく、信仰によりもたらされることも。

パウロはこれを“霊の賜物”としてとらえ、偶像との決別を可能とならしめたことも、やはり賜物によるのであると、教えます。

地中海のペロポネソス半島の付け根にある港町のコリントスには古代、アポロン神殿が存在しましたが、交易都市でもあったため、様々な宗教が流入し続けました。これらを元に形成された諸々の偶像崇拝を一掃するのがパウロのミッションでもありました。

コリントの教会内には、心の整理がつかないままに礼拝に参加している人々が少なからず存在しています。また、彼らをそそのかす偽の教師たちも巡回していたようです。正しい教えとそうでないものを峻別するための作業が求められます。

神の霊によって語る人は、誰も「イエスは呪われよ」とは言わず、また、聖霊によらなければ、誰も「イエスは主である」と言うことはできません。（Ⅰコリント書12：3）

この教えは、霊の賜物を受けている人なのか、そうでない人なのかを区別するための簡単な方法であることを教えています。歴史的には、これこそが“信仰告白の原形”と言えます。信仰告白は神からの霊の賜物によって口をついて出てくるものだからです。

ただ、もし本当に「イエスは呪われよ」と教える者がいたのだとすると、彼らはユダヤ人移住者ら（ディアスポラ）に教えを垂れるユダヤ教の教師であったか、乃至は、肉のイエスではなく霊的キリストにだけ価値を認めた、いわゆるグノーシス派のキリスト教（？）の教師だった可能性が指摘されています。どちらにしても、当時の異邦人の会衆には区別しがたい類似した教えとして受けとめられていたようです。

そこで、パウロが敢えて強調したのは、三位一体の神のそれぞれの賜物でした。

先ず、神の“聖霊”によって恵みの賜物が賦与され、そこから“主”によって（促されて）奉仕の業が体現され、一切を一切において働かせるのが“神”の力によるのだけれども、これらは全て同一の神からのものであると教えたのです。

続きを読むと、この聖霊によって賦与される恵みの賜物が、会衆一人一人の具体的な役割分担をも決定することが記されています。